

【1】人口構成と動態：地域の基礎体力

1. 総人口の推移と将来推計（2020 年）

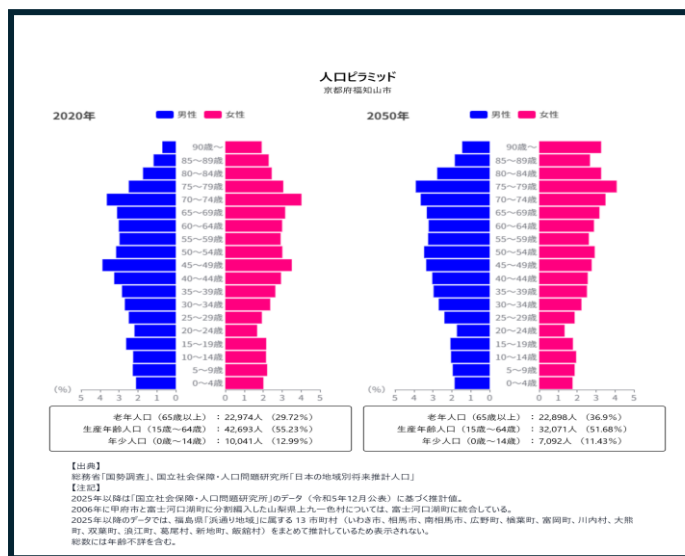


- 人口マップ > 人口構成分析 > 人口推移 TAB

【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- 2020年の人口は77,306人。2000年の83,120人比べて、大きく減少している。将来人口を見ると、今後も人口減少が続く見込みである。
- 今後の傾向として、年少人口と生産年齢人口は減少傾向であり、老年人口はしばらく横ばい傾向である。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳。老年人口は65歳以上を指す。

2. 人口ピラミッドの変化（2020年）



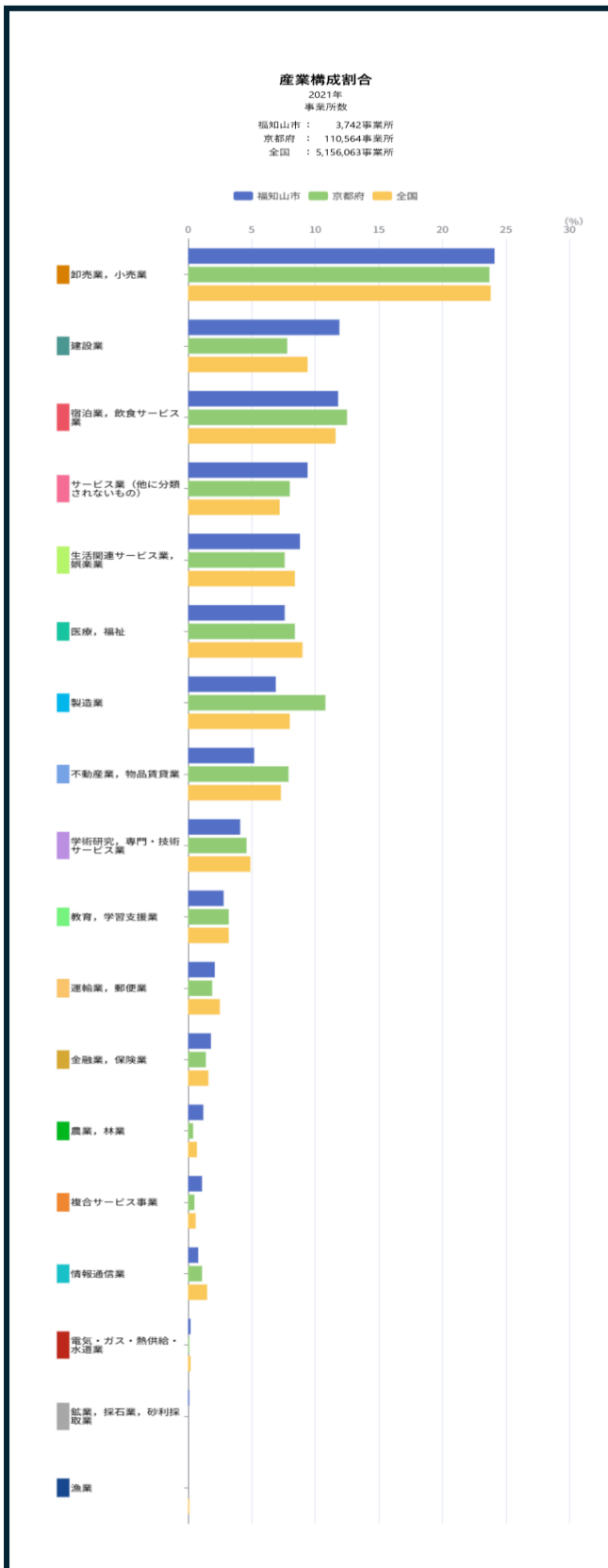
- 人口マップ > 人口構成 > 人口ピラミッド TAB

【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- 国勢調査の最新年（2020年）と将来2050年（推計）を並べて比較表示している。
- 老年人口の割合を見ると、2020年の29.72%から2050年には36.9%まで上昇する。
- 一方、年少人口の割合は、2020年の12.99%から2050年には11.43%まで減少する
※高齢化率: 65歳以上の割合を数値で記載。医療・介護需要の増大を示唆します。
※若年層: 0～14歳人口の割合から、将来の持続可能性を評価します。

【2】産業構造：地域の稼ぐ力

1. 産業構造の全体像（事業所数、2021年）



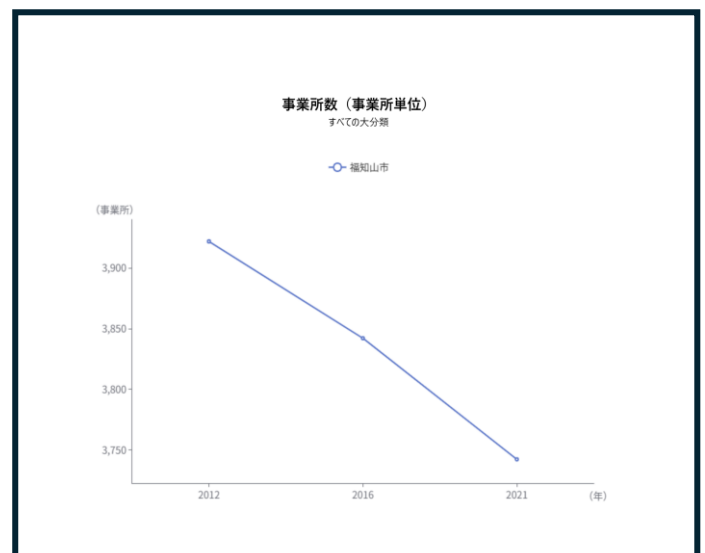
- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成 TAB

【出典】総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

- 業種ごとに地域の事業所数の順で並んでいる。最も多いのは卸売業・小売業で900事業所である。構成割合は24.1%を占める。
- 2番目に多いのは建設業で447事業所である。構成割合は11.9%で京都府の平均より高めである。

2. 産業構造の全体推移（事業所数、2021年）

- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）TAB

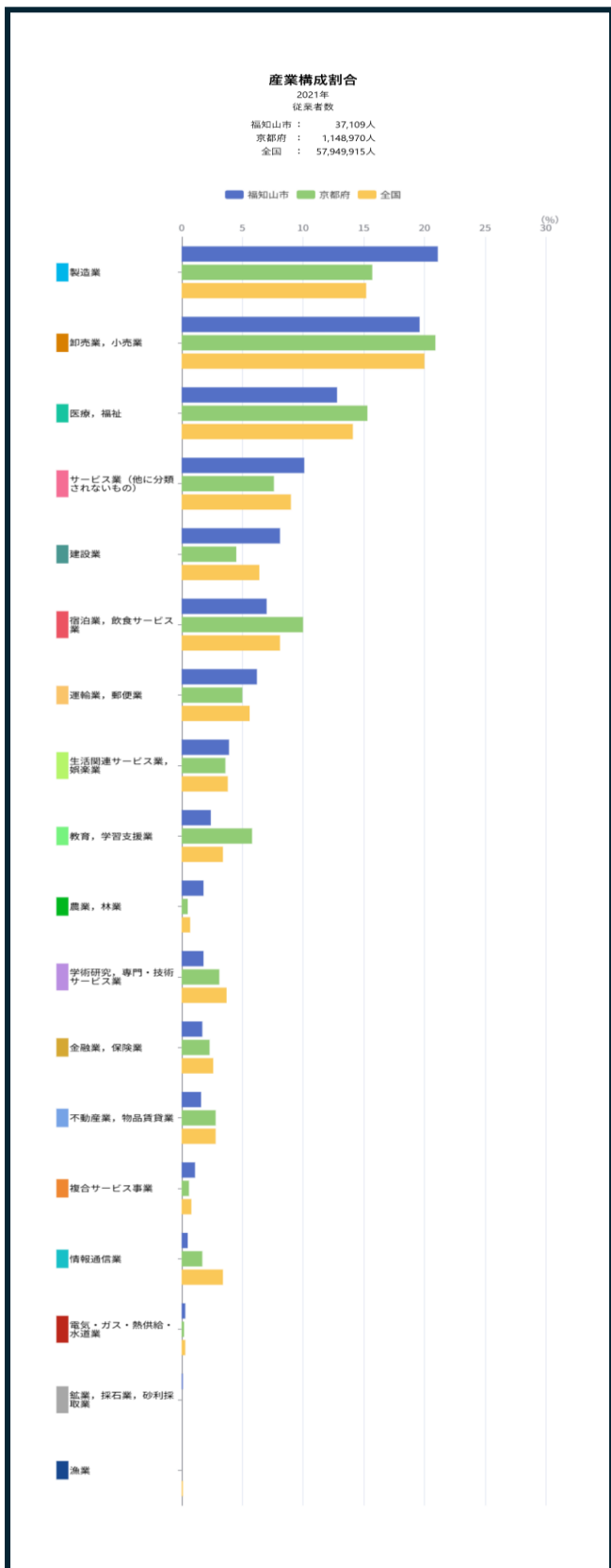


•2021年の事業所数は3,742事業所である。2012年は3,922事業所であり、減少している。

- ・近隣の舞鶴市も同様の減少傾向である。

- 卸売業・小売業
1,042事業所(2012年)→ 900事業所(2021年)
- 製造業
475事業所(2012年)→ 447事業所(2021年)

3. 産業構造の全体像（従業員数、2021年）



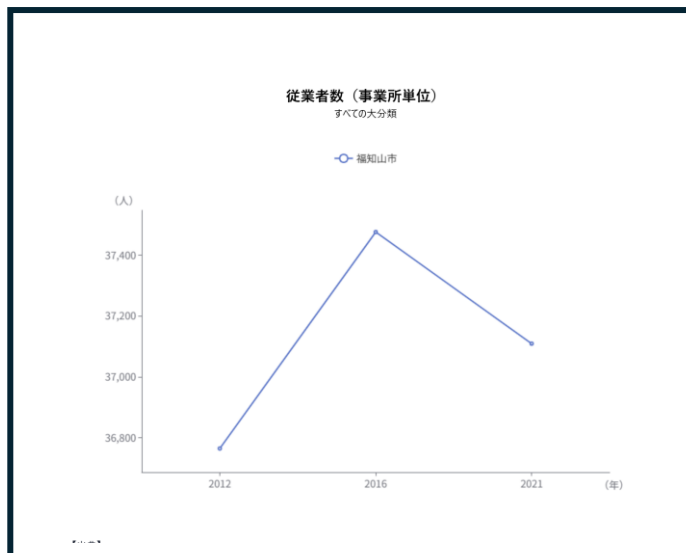
- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 産業構成 TAB

【出典】総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（産業横断調査）」

- 業種ごとに地域の従業員数の順で並んでいる。最も多いのは製造で7,833人である。構成割合は21.1%を占める。
- 2番目に多いのは卸売業・小売業で7,291人である。構成割合は19.6%で地域の雇用を支えている。

4. 産業構造の全体推移（従業員数、2021年）

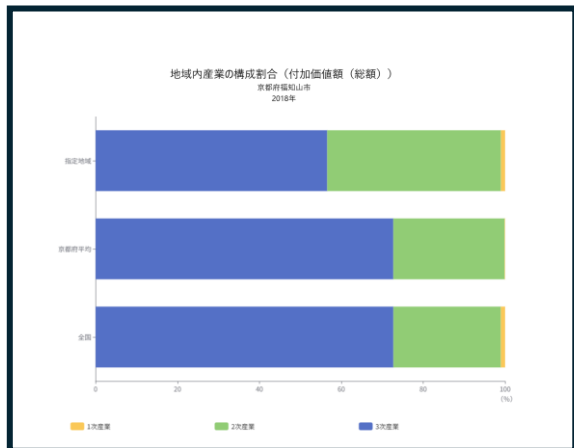
- 産業構造マップ > 産業構造分析 > 推移（全産業）



- 2021年の従業員数は37,109人である。2012年は36,764人であり、増加している。
- 近隣の舞鶴市では従業員数は減少している。

5. 産業別付加価値額の構成(2018年)

- 地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見る TAB

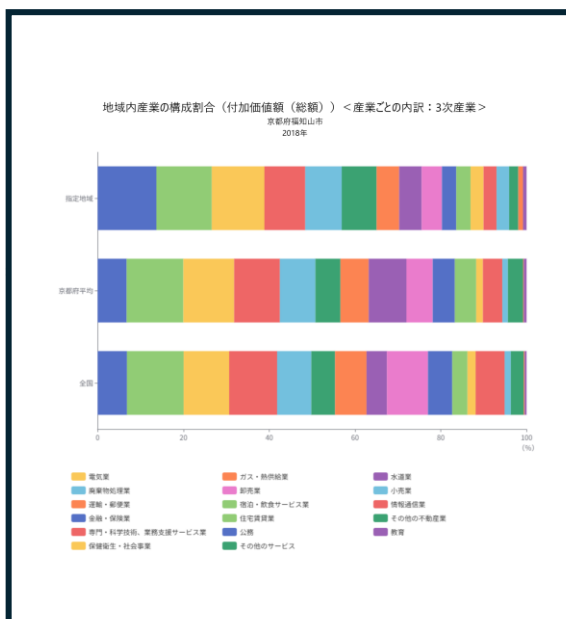


【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- 地域の産業の構成割合を京都府及び全国と比較したグラフである。比較では地域の3次産業が56.6%、2次産業が42.4%は、京都府の3次産業が72.7%、2次産業が27.2%、全国の3次産業が72.7%、2次産業が26.2%と比較して、差異は大きい構成の割合である。

6. 産業別付加価値額の構成(2018年) 産業ごとの内訳

- 地域経済循環マップ > 生産分析 > 地域内産業の構成を見る TAB



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- 地域内の二次産業で、構成割合の一位の化学が29.4%、二位の建設業が11%、三位のはん用・生産用・業務用機械が11%である。地域の二次産業の付加価値額総額は1,739億円である。
- 地域内の三次産業で、構成割合の一位の公務が13.7%、二位の住宅賃貸業が12.9%、三位の保健衛生・社会事業が12.3%である。地域の三次産業の付加価値額総額は2,319億円である。
- 稼ぎ頭の特定:** 従業者数だけでなく、「金額ベース」で最も稼いでいる産業を順に3つ挙げています。
- 構造的特徴:** 第2次産業(製造業)主導型か、第3次産業(サービス業)主導型かを分類します。

【3】地域経済循環：お金の流れ

1. 地域経済循環図（2018年）

- 地域経済循環マップ > 地域経済循環図



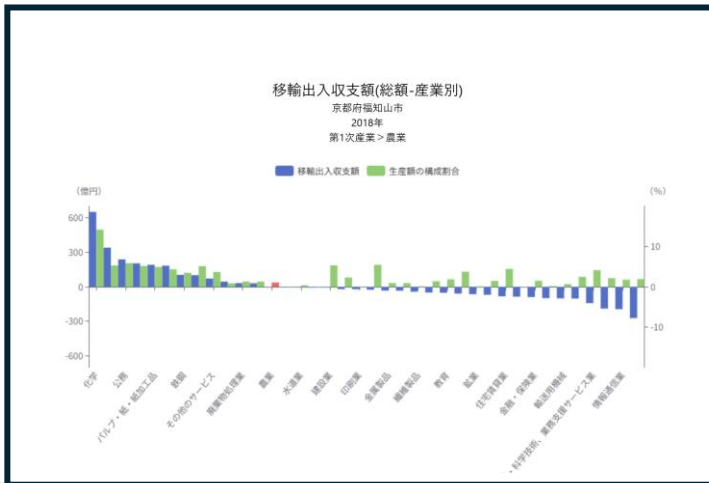
【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

- 地域内の活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて再び地域内に還流する。この流れを示したものが地域循環図である。
- 福知山市は、4,099億円の付加価値を生みだしている。
- その付加価値は、市外との流出入により差引され3,704億円が市内に分配され、支出に回っている。
- 市内に支出された金額は3,704億円。地域内の所得4,099億円より少なく、稼ぎが市外へ流出している。
- 地域経済循環率: 100%を超えていれば外貨を獲得できおり、下回ってれば地域外への依存度が高い状態です。
- 大きな流れ: 「生産」→「分配」→「支出」のプロセスのうち、どこでボトルネック（縮小）が起きているかを確認します。

2. 移輸出入収支額（生産分析、2018年）

- 地域経済循環マップ > 生産分析 > 産業別の分布を見るTAB

【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

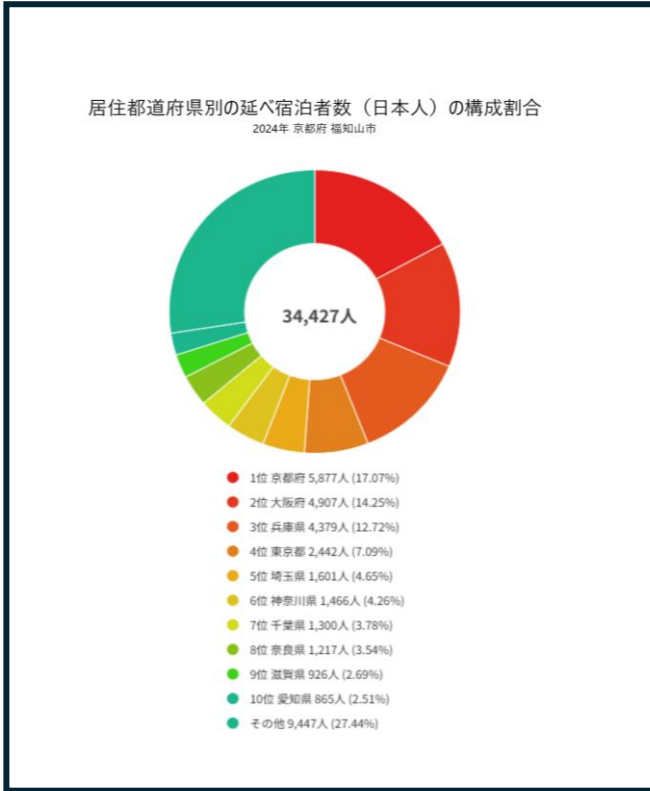


- 「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が出ていることを示す。
- 化学が移輸出入収支額プラス651億円で最も域外からお金を獲得している。
- 卸売業が移輸出入収支額マイナス272億円で最も域外にお金が出ている。

【4】観光・交流人口：外からの活力

1. 観光客の属性(2024年)

- 観光マップ > 宿泊者分析 > 居住都道府県別に見る TAB

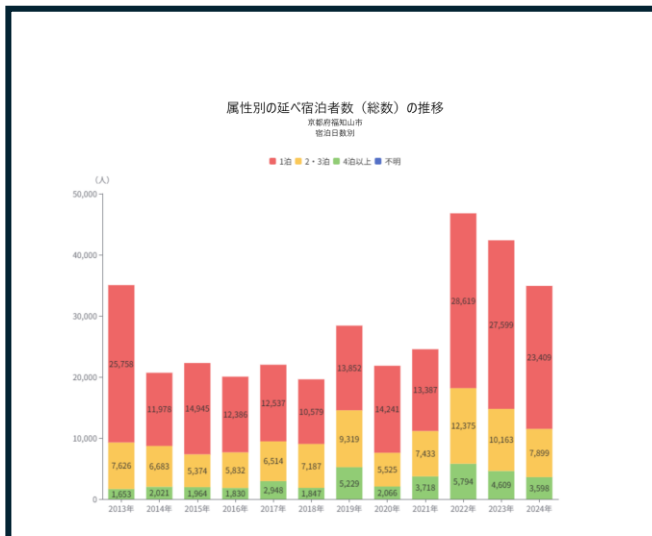


【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

- 居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフでは、京都府 17.07%と最も多く、大阪府が 14.25%と続く。
- 商圈分析: 近隣府県（京都、大阪、兵庫）からのマイクローツーリズムが多いか、遠方（関東など）からの集客ができているかを確認します。

2. 観光客の属性（2024年、宿泊日数別）

- 観光マップ > 宿泊者分析 > 属性別に見る TAB



【出典】観光予報プラットフォーム推進協議会

- 宿泊日数別では、1泊が 23,409 人、2-3泊が 7,899 人、4泊以上が 3,598 人。

この経済分析は「RESAS」活用しています。

作成：福知山市商工会